



# 今週の本棚



沼野 充義 評

## 「集団主義」という錯覚

——日本人論の思い違いとその由来

高野陽太郎著（新曜社・283円）

國民性に関する紋切り型のイメージというものがある。たとえば、ロシア人は酒飲みだと、日本人は時間に几帳面だ、といった類のことだ。しかし、そういうパターンに当てはまらないケースも珍しくない。私の知っているロシア人の作家の多くは酒を飲むにしても私ほどではないし、私は日本人だがよく遅刻をする。

しかし、ステレオタイプはしばしば違いを無視して、ある集団全体を問題にもつながり、ひいては国際関係にも悪影響を与える。高野

これは便利であると同時に、危険なものだ。外国人の犯罪が自立つ（ような気がする）からといって、日本

## 誤ったステレオタイプを生む思考の偏り

による外国人が皆犯罪者であるわけではないのは、もちろんのことだろう。このように科学的に実証される

い一種の「錯覚」だというのである。目からウロコの知的爽快感を味わえる。

日本人が集団主義的だという見方

は、アメリカの人類学者ベネディクトによる有名な日本人論『菊と刀』で提唱されて以来、多くの日本人論

は集団主義的だ（それに対して、アメリカ人は個人主義的だ）というステレオタイプは、現実的な根拠もないければ、科学的に証明されてもいいな

日本人とアメリカ人の間に明確な差を見出しており、五件は通説とは逆に、アメリカ人のほうが日本人よりも集団主義的、という結果を示していることがわかったのだ。

その結果、明らかにされることは、日本人とアメリカ人の間に明確な差を見出しており、五件は通説とは逆に、アメリカ人のほうが日本人よりも集団主義的、という結果を示していることがわかったのだ。

誤ったステレオタイプを生み出す人間の思考の様々なバイアス（偏り）であり、日本人＝集団主義という見方自体、一種の「オリエンタリズム」（西洋人が東洋人に對して抱く偏見）だということである。人間は互いに非常に似ていて、人間の行動を決めるのは文化よりも状況であり、文化的な違いが決定的なわけではない。それなのに、違いを強調することによって、人類は戦争や大量殺戮を繰り返してきた。本書から響いてくるこの冷静な主張に、現代社会はもっと耳を傾けるべきであろう。

陽太郎氏の著書『集団主義』といふ「錯覚」は、まさにこの点を明快に論じたもので、心理学の知見と徹底的な調査に基づいた高度に学問的な内容を含んでいながら、噛んでふくめるような親切な書き方になつてゐるおかげで、専門的知識のない読者にも、面白いように理解できる。

優れた学者の仕事がいつもそうであるように論旨は単純明快で、日本人は集団主義的だ（それに対して、アメリカ人は個人主義的だ）といふステレオタイプは、現実的な根拠もなければ、科学的に証明されてもいいな

で当然の前提のよう受け継がれてきた。しかし著者は日本人＝集団主義、アメリカ人＝個人主義、という通説に疑問を持ち、本当にその通りか、確かめるために調査に乗り出した。そして、日本人とアメリカ人を直接比較した心理学の実証的研究十

九件を網羅的に洗い出したところ、驚いたことに、そのうちの十三件は、

日本人とアメリカ人の間に明確な差を見出しており、五件は通説とは逆に、アメリカ人のほうが日本人よりも集団主義的、という結果を示していることがわかったのだ。